

主体的・能動的学びを導くための学習ポートフォリオの活用

岡田 美鈴

Utilization of the Learning Portfolio to Lead Proactive and Active Learning

Misuzu OKADA

Abstract

This paper reports the learning portfolio to lead 84 third-year students to proactive and active learning and the improvement of TOEIC bridge scores. A learning portfolio is a means of collecting the data that students reflect their activities and evaluate their own performance by filling out the descriptive questionnaire at the end of the class. Therefore, this activity may enable them to review the contents of learning and to be conscious of lack of knowledge and skills. This paper considers the following two topics: (i) the role of the portfolio regarding proactive and active learning, (ii) the relationship between proactive and active learning including the learning portfolio and the improvement of TOEIC bridge scores.

Keywords: learning portfolio, proactive learning, active learning

1. はじめに

ポートフォリオとは、日本語で「書類入れ」や「紙ばさみ」を意味している。「学習ポートフォリオ」とはつまり、様々な方法で学習者自身に学習の振り返りを促し、自己または他者を評価したものをデータとして蓄積していくことを意味しており、近年、多くの教育現場で注目されている学習支援方法のひとつである。本論文は、3年生84人を対象に、2016年度前期の授業において導入した学習ポートフォリオについて報告するものである。3年生の授業では、リーディング活動を主体に、音読、デジタル教材による語彙学習、ディベート活動などを取り入れて、4技能向上のための基礎能力を身につけることを目的としている。それらの活動を振り返ることで内省を促し、自らの持つ知識や技能について再認識できれば、効果的な学習方法を自ら発見することが可能になると考えられる。主体的及び能動的学び、いわゆるアクティブラーニングの観点から、ポートフォリオが果たしている役割について、学生の記述内容を参考に考察していく。また、

半期に一度受験する TOEIC Bridge のスコアを比較して、その変化と学習ポートフォリオの関係についても同様に考察してみる。

2. これまでの学習ポートフォリオ研究

ポートフォリオは、もともとヨーロッパでその効果が認められた学習支援方法であり、欧州評議会が CEFR (Common European Framework for Reference of Languages) の理念を実現するために作成したヨーロッパ言語ポートフォリオが広く知られている (宮谷・ワッツ・人見, 2013)⁽¹⁾。現在では、学習ポートフォリオの理論的な側面やその効果、論理的思考や課題解決能力を身につけるためのプロジェクトベース学習 (Project based Learning、以下 PBL) との関連性をまとめた書籍も出ており (Zubizarreta, 2009; 土持, 2009, 鈴木, 2012)⁽²⁾⁽³⁾⁽⁴⁾、幅広い分野において徐々に取り入れられている。日本における実践例としては、言語ポートフォリオに基づいて、ドイツ語学習の際に学習ポートフォリオを作成させた宮谷・ワッツ・人見 (2013)

3. 自分にとって一番良かった活動はどれでしたか。

イラストみながら単語と学ぼうと頭に入ってきた。

4. 授業中の目標は達成できたと思いますか。

ペアワークで「とんが」のようか。怪獣かを理解できた。

5. 今回の活動を TOEIC 受験や自主学習の中でどのように生かせると思いますか。

文の構成を把握して、文章全体の意味を捉えていきたい。

5. 今回の活動を TOEIC 受験や自主学習の中でどのように生かせると思いますか。

資料書の重要事項をプリントし書き出すか、と思った。

このように、多くの学生が時間をかけてじっくり取り組んでいる。何ができないのかを再認識したり、活動に対する新たな取り組み方を見出したり、授業内の活動を自らの自主学習や TOEIC 受験時においてどのように活用したらよいかについて、それぞれが考えを巡らせていることが分かる。

一方、高橋 (2010)⁶⁾ が指摘しているように、学生によっては内容や記述量にむらがあり、振り返りに対して気づきが起こっていない可能性があるものも見られる。

2. 授業の中で気づいたことや学んだことは何ですか。(自分のことやクラスメートのこと)

life saving 人命救助の

3. 自分にとって一番良かった活動はどれでしたか。

対話ワーク

4. 授業中の目標は達成できたと思いますか。

とくに。

4. 授業中の目標は達成できたと思いますか。

いては。

この活動では、記述量ではなく、(1)出来たこと、出来なかったこと、教えられたこと、教えたことについて振り返りができているか、(2)どのような点で目標が達成できたかについて具体的な記述があるか、(3)授業での活動をどのように自主学習に取り込めばいいかについて考察しているか、の3点に焦点をあてて採点している。内容に応じて5点、3点、一部で記入が見られないものについては1点としているが、先行研究にもあるように、教員側がポートフォリオについて基準を策定し評価することは、非常に難しい。

5. TOEIC Bridge スコアの変化

次に、TOEIC Bridge のスコア変化を概観する。表1と図2にあるように2015年9月、2016年4月、2016年9月のスコアを比較する。学習ポートフォリオが導入されたのは2016年4月からである。t検定によってスコアの平均点を比較したところ、表2のような結果を示した。本研究では84人が参加しているが、2015年度及び2016年度4月のTOEIC Bridge スコアがない2人は、分析から外してある。

表1 TOEIC Bridge スコア平均と標準偏差

	15年9月	16年4月	16年9月
Total	123.13	123.59	126.14
SD	20.34	18.00	17.74
Listening	62.50	62.92	61.91
SD	8.42	7.72	7.98
Reading	62.00	60.63	64.48
SD	9.35	11.53	10.82

n=82

Total スコアを見ると、2015年9月から2016年9月の1年間で、3点上がっていることが分かる。半年に一度の受験で、毎回 Total の平均点が少しずつ上がっている。Reading も同様で、わずかではあるがスコアが上昇している。一方、Listening は、2015年9月から

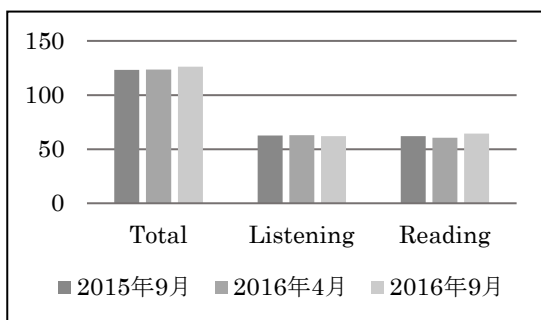


図 2 TOEIC Bridge スコアの変化

2016 年 4 月の半年間でわずかに上昇しているものの、2016 年 9 月には下がっていることが分かる。

表 2

16 年 4 月と 9 月のスコアによる t 検定の結果

	t	p	効果量 d	
Total	1.99	0.04	0.14	なし
Listening	1.70	0.09	0.07	なし
Reading	3.97	0.00	0.35	小

効果量 d の基準: $d=0.20$ (効果量小)、 $d=0.50$ (効果量中)、 $d=0.80$ (効果量大) (水本・竹内, 2010)⁹⁾

Total スコアでは平均点の微増が確認でき、 t 検定で有意差が出たものの、効果量が示されなかったため、平均点に有意差は見られないと言えるであろう。しかしながら、Reading においては、平均点の上昇がわずかであるにもかかわらず、 t 検定で有意差が確認されており、効果量も小さくはあるが認められたため、Reading スコアについては、平均点に有意差があることが判明した。また、表 3 は 2015 年 9 月と 2016 年 9 月のスコアについて t 検定を実施したものである。

表 3

15 年 9 月と 16 年 9 月のスコアによる t 検定の結果

	t	p	効果量 d	
Total	1.59	0.11	0.17	なし
Listening	1.70	0.09	0.07	なし
Reading	2.64	0.00	0.27	小

n=79

2015 年 9 月のデータがない学生は分析から外したため、人数は 79 人である。2016 年 4 月との比較と同様に Reading のみで有意差が見られた。

6. 考察

最初に述べた以下の 2 点について考察していく。

(1) 主体的及び能動的学び、いわゆるアクティブラーニングの観点から、ポートフォリオが果たしている役割について。

4. 学生の反応のところで示したように、自らの学習や活動について振り返りができている学生と、そうではない学生が存在している。これは、他の先行研究でも指摘されている点である。現在は記述式シートを使用しているが、文章で書くことに負担を感じる学生や書く気が起こらない学生がいることを考慮して、5 スケールでの回答を求めるなど、スタイルの再考が必要であると思われる。しかしながら、振り返りを促すことによって、その日学習した知識の定着に役立っていることは、後期の授業のリーディング活動から感じられる。それぞれが、ディスコースマーカー (First~, Second~, For instance など) にチェックを入れながら読み進めたり、段落ごとに要点をまとめてグループのメンバーに効率よく内容を伝えたりなど、リーディング活動における学生の成長が見られるからである。ポートフォリオの効果を数値化して示すことは今後の研究が必要ではあるが、自らの学習における問題点に気づき、新たに取り入れたり、軌道修正したりといった点については、学習ポートフォリオが一定の役割を果たしている点ではないだろうか。

(2) 半期に一度受験する TOEIC Bridge のスコアを比較して、その変化と学習ポートフォリオの関係について。

TOEIC Bridge や TOEIC は、その時々によって難易度にわずかなばらつきが見られるため、短期間におけるスコア比較だけでは知識や技能の向上を証明することは難しい。しかしながら、スコアを見てみると、

Total 及び Reading において維持もしくはわずかな上昇が見られるため、ポートフォリオ作成を含む活動的な英語学習の結果を示していると考えられる。また、Reading パートの t 検定において有意差が見られることから、本論文における 3 年生では、新しく導入された振り返りワークシートの記入によって、リーディングスキルの認識と内在化 (自らの学習体系に取り込むこと) が起こっている可能性を示唆していると思われる。Listening パートでは、スコアがわずかに下がっているため、授業内でのリスニング活動や音読について再考する必要があるであろう。

7. 今後の課題

学習ポートフォリオは、すべての学生にとって効果的なものであるとは言い難いが、振り返りが学習における学生の成長を促す役割を果たしている可能性を否定することはできないだろう。多くの学生にとって内省を容易にする効果的なデザインを検討していくことが重要である。また、今後、ポートフォリオを含む様々な能動的且つ活動的な学習、いわゆるアクティブラーニングが、学生の技能やスコアの向上にどのような影響を与えているのかについて、相関分析やパス解析などを行い詳細に分析していく必要があるであろう。

- (4) 鈴木敏恵 (2012). 『課題解決力と論理的思考力が身に付くプロジェクト学習の基本と手法』. 東京: 教育出版.
- (5) 津田純子 (2010). 「プロジェクトベース学習のポートフォリオ評価と教育ポートフォリオ」. 新潟大学 大学教育機能開発センター 大学教育研究年報, 81-89.
- (6) 高橋秀樹 (2010). 「ポートフォリオを活用した授業活性化」, 新潟大学 大学教育機能開発センター 大学教育研究年報, 97-99.
- (7) 甲谷結未・中村暢宏 (2015). 「グローバル・サイエンス・コースにおけるルーブリックと e-ポートフォリオの開発と課題」, 高等教育フォーラム第 05 号, 95-106.
- (8) 東京学芸大学. 「B 研究の着地点を見通すリフレクション・ワークシート」.
[www.u-gakugei.ac.jp/~kyo-gp/common/img/reflectio
n.pdf](http://www.u-gakugei.ac.jp/~kyo-gp/common/img/reflectio
n.pdf)
- (9) 水本篤・竹内理 (2010). 「効果量と検定力分析入門—統計的検定を正しく使うために—」外国語教育メディア学会 (LET) 関西支部 メソドロジー研究部会 2010 年度報告論集『より良い外国語教育研究のための方法』, 47-73.

(2016 年 11 月 7 日 受理)

参考文献

- (1) 宮谷敦美・ディビット・ワッツ・人見明宏 (2013). 「自律学習能力養成を目指した外国語指導の試み—専攻外国語教育における学習ストラテジーとポートフォリオの導入—」『愛知県立大学高等言語教育研究所年報』, 5, 73-98.
- (2) Zubizarreta, J. (2009). *The Learning Portfolio: Reflective Practice for Improving Student Learning (2nd ed.)*. San Francisco: Jossey-Bass.
- (3) 土持ゲーリー法一 (2009). 『ラーニング・ポートフォリオ: 学習改善の秘訣』. 東京: 東信堂.